

## 保健体育科の授業改善

### ～運動量から見た体育の授業分析～

福島県教育センター 指導主事 菅野 義広

#### 1 研究の趣旨

授業改善のためには、まず、授業者自身が自分の授業の事実を知ることが必要ではないかと考えた。このように考えた理由は、次の二つの疑問からである。

第一に、授業者は自分の授業を時間などの量的データに置き換えて振り返ることはあったのかということである。例えば、「保健体育の授業では、マネジメントの時間などの一般的な内容を除いた体育的内容の時間をどのくらい確保しているのだろうか。」「体育的内容の中で実際に生徒一人一人はどれだけ運動しているのだろうか。」という疑問をこれまでどのくらい抱いてきただろうか。

第二に、授業者は自分の授業構想と授業の事実を比較して、振り返ることはあったのかということである。例えば、「体育的内容の割合や運動量が、授業構想のイメージと実際は一致しているのだろうか。」といった疑問に対して、事実に基づいて授業者がどのくらい意識的に授業の振り返りをしてきただろうか。

教育センターの平成19年度基本研修中学校・高等学校保健体育科の各講座では、簡単な授業観察方法(計時法)を用い、自分の授業での「平均的な活動をする生徒<sup>1)</sup>一人」に焦点を当てた「客観的データ<sup>2)</sup>」を基に授業分析を行った。

これまでの授業改善を、研究授業や研究会などで振り返ってみると、私も含めて保健体育にかかわる多くの教師は、直感的判断・評価や思い込みによる授業の振り返りが多かった一面があったと言えるだろう。これを意味のないことと否定するのではなく、客観的データが加わることにより、これまで以上に授業をより客観的に振り返ることができると思う。

本研究は、特に「運動量」に着目し、授業者の授業構想と授業の事実の差異から、今後の授業改善のための自己課題を見付けるきっかけを作りたい。

1) 授業者からみた運動技能が中位の生徒

2) ここでは、計時法で求めた時間の量的データ

#### 2 研究概要

##### (1) 授業観察法の研究

先行研究事例の研究(ALT-PE観察法<sup>3)</sup>による先行研究データについて)

観察方法の研究(客観的データを収集する組織的観察法について)

アンケート内容の検討(研修の範囲で行える内容検討について)

3) 組織的観察法の内の間隔記録という手法で、短時間に分けて、特徴ある行動で記録していく方法。

##### (2) 授業観察の実践と分析

研究対象：平成19年度基本研修中学校・高等学校保健体育科教諭39名

授業観察：この研究では、計時式体育授業分析法(計時法<sup>4)</sup>)を用いて授業分析を行う。

4) 西順一氏がALT-PE観察法を簡便化し開発した観察法で、授業の観察結果を事後研究会にすぐ生かすという目的で作られた。原則として期間記録(継続時間記録表)と呼ばれる方法でデータをとり、行動の開始から終了までの時間を測定する。

研修者(授業者)への意識調査

「授業改善に関する意識調査1(事前)」は、研修時の趣旨説明後、各研修者が自分の授業(DVテープに録画)を見る前に実施した。

「授業改善に関する意識調査2(事後)」は、11月中旬に教育センターから送付された各研修者の全体データと個人データを研修者が確認した後に実施した。

#### 3 成果と今後の課題

##### (1) 成果

計時法は、簡単に行うことができ、必要なカテゴリーに焦点を当てて客観的データを収集するのに適していることが明らかになった。

運動従事的时间については平均すると16分07秒にとどまり、各研修者がイメージしていた時間よりもかなり少ないことがデータの分析から裏付けられた。

イメージと授業の事実との差異を知ることにより、研修者は運動量を確保するための指導方法の工夫という視点から具体的な自己課題を挙げることができた。

##### (2) 今後の課題

授業者が必要とするデータを的確に得るためには、組織的観察法の中でどのような方法がより有効なのかを今後整理する必要がある。

研修者は具体的な自己課題を挙げることができたが、授業改善に結び付く教材研究を深めるまでには至っていない。今後、各学校における教材研究が充実するよう研修者への啓発を行い、具体的な授業の事実を目を向けて自己課題を改善できるようにしていきたい。